

ペレットストーブ

飯豊版“できた”

飯豊町が山形大、山本製作所(天童市)と共同開発していた「いいで型ペレットストーブ」の試作機が完成した。24日、町役場で報道関係者に披露された。熱効率と着火性能、安全性を高めたのが最大の特徴。また、試験段階だがストーブの排熱を利用した発電システムも発表。燃料の木質ペレットは町内産で、関係者は「ストーブが普及すれば豊富な森林資源の有効活用や産業振興、産学官連携など多くの波及効果があると期待している」。

同町がエネルギー施策の一環で2009年、点火が遅く、暖まりにくかった当時のペレットストーブの欠点を解消し



山本製作所のモデルをベースに完成したいいで型ペレットストーブの試作機。後部に付いているのは排熱利用発電システム
飯豊町役場

今秋にも売 排熱発電システムも

ようと、山形大と山本製作所に製作を持ち掛けて開発が始まった。町は当初、オイルで着火を早める仕組みを提案していたが結局、電気による着火に落ち着いた。また、東日本大震災を経験したことから停電でも使えるストーブを、指し、コンセプトに「ひねり」を加え「熱発電素子」の性質を応用した排気と給気の温度差で発電する、排熱利用発電装置も開発した。蓄電機能もある。

ストーブは山本製作所の製品をベースに、同町の本質バイオマス製造施設で生産されるナラ材ペレットに対応した独自の「いいで型」とした。他にも足元から温めるため温風を下から出したり、燃焼音を低減させるなどの工夫や、自動消火装置を付けるなど安全面にも注意を払っている。ストーブ本体は改良を加え、今秋にも40万円前後で販売



試作機の可能性を語る山形大国際事業化研究センターの柴田孝教授(中央)

はもうしばらくかかるという。開発を提案した後藤幸平町長は「生みの苦しみを味わったが、ここまでたどり着いた。これを生かし画期的な地域おこしにつなげられれば」と力を込める。山形大国際事業化研究センターの柴田孝教授は「ストーブの完成で産学官連携の基盤ができた。飯豊、山形発の地域モデルに発展させたい」と話した。

夜が24日、家族や級友ら数百人の参列者に見守られる中、同県ときがわ町の斎場で営まれた。

4月の小学校入学を楽しみにしていたという波琉人ちゃん。祭壇には遠足の時に撮影した、無邪気にほほ笑む遺影が飾られた。突然奪われた小さな命に、会場は深い悲しみに包まれた。

通夜の後、父伸明さん(42)は報道陣に「心にぽっかり穴が開き、力が入らない。作業員がもう少し注意していれば亡くなることはなかった」と語った。この日は、足場を組み立てた「アーステップ」(東松山市)の社長らの姿もあったが、遺族関係者が焼香を断った。

デニムの藍に染まる

銀座でファッションショー

東京・銀座の目抜き通りが、ファッションショーの会場に。ジーンズなどの日本のデニム製品を国内外にPRする「銀座ランウエー」(経済産業省など主催)が24日、開かれ、約2千人の観客が集まった。写真。

約160人のモデルが歩くランウエーは、広島県のメーカーが提供した長さ約100センチ、幅約3センチのデニム生地。枝野幸男経産相や招待された仙台市の子ども10人も登場した。ワンピースや和服などデニムを使った斬新な衣装をまとい、銀座が藍色に染まった。通りに面した百貨店の松屋と三越

柏崎刈羽 6号機 あす未明定期検査入り

東京電力は26日未明、柏崎刈羽原発6号機(新潟県)を続けるのは北海道電力



崎刈羽原発6号機(新潟県)

転を続けるのは北海道電力

電力大飯3、4号機は安全評価(ストレステスト)の1次評価を終えたものの、地元理解を得られるかは不透明で、国内の稼働原発がゼロになる可能性が高ま

検査のため停止している。

九州・沖縄と山口で黄砂 気象庁は24日、九州・沖縄地方と山口県で黄砂を観測した

と発表した。国内で黄砂が観測されたのは今年初。同庁は視界不良や洗濯物の汚れなど